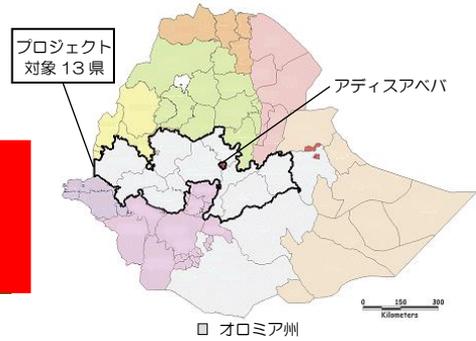




Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！



机・いすの贈呈式が開催されました！

～ (社) 日本エチオピア協会 第9回農村児童教育支援 ～

Ho! ManaBU の対象クラスター・リソース・センター (CRC) を含む 4 つの学校に計 200 脚の机・いすの寄贈があり、全ての学校で贈呈式が開催されました。

昭和 47 年に青年海外協力隊のエチオピア 1 期生として天然痘監視員の活動を行った内藤幸彦さんが、隊員時代に見た「村の学校で、机もなく地面に座ってけなげに勉強する子どもたちの姿」が忘れられなく、18 年前から教育支援の一環として「机基金」を開始され、今回の寄贈先に本プロジェクト対象校も含めていただきました。内藤さんは、現在、(社) 日本エチオピア協会理事および川崎中ロータリークラブ会長を兼任されており、同会員の田中さんや長女の亜由美さん、そして机・いすの製作に関するサポートをされた、エチオピア在住のバーバリッチ優子さん (日本エチオピア協会・前理事) とともに 4 校の贈呈式に出席されました。

贈呈式は 2 日に分けて実施され、1 日目の 6 月 7 日はプロジェクト対象 CRC の中心校で、野市小学校の姉妹校でもあるボレ小学校 (関連記事: しんぶん 4 号・9 号・10 号) と、2006 年 3 月に終了した前プロジェクトの ManaBU (住民参加型基礎教育プロジェクト) で開発されたモデルを活用し、日本大使館の草の根・人間の安全保障無償 (GGHSP) の対象として建設されたハトサ郡のデヤ・デベソ小学校 (関連記事: ManaBU しんぶん 36 号・47 号) で行われました。

ボレ小学校の贈呈式には、オロミア教育局 (OEB) ダレジェ局長やデブラゼート特別市教育事務所 (STEO) 行政官も出席し、ダレジェ局長の熱のこもった挨拶や内藤さんの軽快なスピーチなどの後、机基金に賛同され寄付をしてくださった方々の名前の入ったシールが、真新しい机・いすに一つ一つ貼られました (写真下)。



ボレ小学校での贈呈式の後、一行は伊藤嘉章公使 (在エチオピア日本大使館) や大田孝治所長 (JICA エチオピア事務所) と合流し、デヤ・デベソ小学校での贈呈式に出席しました。

手作りの日の丸で多くの児童が出迎え、伊藤公使や内藤さんに花束が手渡された後、地域住民の待つ贈呈式会場へ移動し、地域住民代表・郡教育事務所 (WEO) 行政官・校長からの机・いすのお礼やダレジェ局長・伊藤公使・大田所長・内藤さんのスピーチがあり、その後、ピアニカやボール、日本の子どもたちの絵画が内藤さんから手交されました。

真っ黒の雨雲や遠くの雷の音に、みんな雨の心配をしていたのですが、大田所長の「我々の熱気で雨雲なんて吹き飛ばしましょう」という言葉が空にも聞こえたのか、雨が降るところか晴れ間さえ見えました。教室に移動し、ボレ小学校と同様に、名前シールを貼り、和気藹々とした雰囲気の中、贈呈式を終わりました。

この日に訪れた 2 校を選んだ理由は、もちろん「住民参加」がキーワード！ 今回の「机基金」の話を取り、いくつかの学校を訪問した際、両校とも住民参加による増設の校舎が建設中であったこと。内藤さんたち一行がエチオピアを訪問されるまでに、少なくとも一教室は完成させると確約したこと。校長 (学校) と地域住民の信頼関係が構築されていること、などなど...。とはいえ、一週間前に机・いすの搬入のために訪問した際は、まだ完成しておらず、冷や冷やドキドキでしたが、当日に満面の笑みで出迎えた校長に、固い握手を交わしたフラ (野邊) でした。2 日目の様子は 3 ページ目！



*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

供与機材の配達開始！

先月号のしんぶんでもお知らせした CRC (クラスター・リソース・センター) への機材供与が、いよいよ始まりました。

当初の計画では、「謄写版・タイプライター」を供与することで合意されていましたが、プロジェクト作成のビデオ教材を学校現場でより広く活用されたり、モニタリング・研修報告を促進し情報管理が改善されるために、そして、PC の普及速度を鑑みた将来性も考慮して、「パソコン・プリンター・ジェネレータ・電圧安定器」の 4 点セットを、対象の 104CRC へ供与することになりました。これらの機材の購入は昨年度から始まっており、購入された機材を OEB へ引き渡す際は、OEB、JICA エチオピア事務所、プロジェクトの 3 者で全ての検品を実施。全機材が OEB 倉庫に納品された姿は圧巻でした。

OEB への機材納品後、CRC への配布は OEB の責任です。5 月下旬には 5 年に一度の総選挙が実施され、選挙前は様々な諸事情から配布は難しく、選挙後はそれまで滞っていた各種配達 (国家試験問題の配布や、給食用の食糧援助物資の配達など) が目白押しで、台数も少なく、かつポンコツの OEB トラックはフル稼働！プロジェクトの供与機材配布がなかなか始まらず、数ヶ月やきもきましたが、6 月 17 日に、ようやく第 1 便が出発しました。

首を長くして待っていたのは郡教育事務所 (WEO) や CRC も同じ。「機材はまだか？」と、わざわざプロジェクトに電話で問い合わせてきたところもありました。第 1 便の配達では、直前のお知らせにも拘らず、配達先の WEO には各 CRC からの代表者が同席。PC やジェネレータのマニュアルがあることに安心した表情も見られ、きちんと使いたいという気持ちが伝わってきました。残り 6 便で、対象全 13 県に配達されます。6 月中の配達完了という最新目標は、達成できるでしょうか…？



(上) 一つずつ丁寧に検品している様子 (下) 倉庫に納品された供与機材

ファシリテーター制度

～ Ho! ManaBU 研修を充実させるために ～

昨年 8 月のガラナの報告会の席上で、JICA エチオピア事務所の佐々木 (前) 所長から、「進行役 (ファシリテーター) 認証制度」のアイデアをいただき、その後の検討で 3 段階 (レベル 3 からレベル 1) の制度を設けることに決めました。具体的には、TOT (Training of Trainers) 研修で Ho! ManaBU 研修を理解した人にはレベル 3、一定以上の研修を実施し、報告書の内容が 60 点以上の人にはレベル 2、そして同じく研修を数多く実施し、報告書が 75 点以上の人にはレベル 1 を授与するということになりました。しかし、学校レベルの研修モニタリングを通し、11 月・12 月に開催された TOT に参加した CRC 担当官・校長・主任が、まじめにそして楽しく研修を実施している姿を見て、プロジェクトチームは感激しています。その努力に応えるために……。 「研修開催を事前に報告」し、「プロジェクトチームがモニタリング」を実施し、「その進行が素晴らしい」と認められた場合、研修回数や報告書の内容に関係なく、レベル 2 やレベル 1 の認定を行うように制度の変更を行いました。



いくら制度を充実しても、進行役のやる気を起こさせるためには、「認定して欲しい！」という気持ちを持ってもらう必要があります。ということで、レベル 3 には「ファシリテーター認定証」(上写真)、そしてレベル 2 には「認定証」と「Ho! ManaBU 傘」、レベル 1 には「認定証」と「Ho! ManaBU ジャケット」を用意しました。



ジャケットの左胸には Ho! ManaBU の刺繍があり、背面には「To meet the smile of children」のキャッチフレーズが入っています。また、傘にも同じくロゴ・キャッチフレーズ (英語とオロモ語) が書かれてあり、さらに、折りたたんだ傘を入れるカバーに

も、プロジェクトロゴとともにオロミア州・JICA ロゴも印刷してあります。どうです？ 欲しくなるでしょ！ 欲しい人は、プロジェクト対象の CRC 担当官もしくは校長・主任として採用され、TOT を受講し、実際に地域住民対象の研修を実施し、プロジェクトチームに「素晴らしい！」と認めさせる必要があります。さあ、まずはオロミア州の教員免許を取得することから始めましょう！と言っても読者の皆さんには無理！ (笑)

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

机といすの贈呈式を開催-2

～ 贈呈式2日目の様子～

贈呈式を成功裏に終え、おいしいビールで1日目を終えた一行は、残す2校の贈呈式に出席するため、翌朝アダミトゥル郡に向けて出発。Wel Come (Welcome?)の張り紙で出迎えてくれたのは、アボサCRCの衛星校の一つであるウォリン・ブラ小学校。OEB局長が同席した昨日の贈呈式に比べ、和やかな雰囲気です。贈呈式が開始され、児童や村の若者によるダンスも披露され、一行も大喜び！ピアニカやボール、日本の子どもたちの絵画を児童に手交した後、元バレー部の内藤さんは、子どもたちにその腕前を披露。パスの際の外に向けた手の平や、まっすぐに伸ばした腕に「さすが！」と声をかけたママさんバレー監督経験者のフラでした。



最後の贈呈式の会場は、同じくアダミトゥル郡のアダミトゥルCRCの衛星校の一つのアネノ小学校。ちなみにこの日の2校は、最初にOEBがプロジェクト対象から地域を選定し、WEOとCRC担当官の意見を参考にし、2校とも衛星校が選出されました。小学校には多くの地域住民が集まり、強い日差しを避けるため、大きな樹の下で贈呈式が行われました。



式の途中、地域住民代表が内藤さんに、オロミア州アルシ地域の民族衣装であるキトゥ（上着）とコフォ（ズボン）が贈呈され、3人がかりで着せ替えられた後、昔取った杵柄(?)のエチオピアダンスを披露し、拍手喝采を浴びました(写真上)。



地域住民が準備したチョコ(大麦とバターでできた伝統食)によるこぼり

ここでも、ピアニカやボール、日本の子どもたちの絵画を児童に手交した後、名前の入ったシールを、教室に並べられた真新しい机・いすに一つ一つ貼り、うれしそうなおもたの表情を写真に収めました。

アネノ小学校の校長は、どうみても学生かな?と思えるほど若い女性なのですが、贈呈式の進行・内容を見ても、地域住民からの信頼がとても厚いという印象を持ちました。その証拠に、机・いすを搬入した12日前には何もなかった教室横の敷地に、砂・石などの資材が用意されており、すでに基礎部分の溝堀も終了し、増築が着々と進んでいる様子です。校長に確認すると、「今回、机・いすが寄贈されたことをきっかけに、5・6年生用の教室を増設(アップグレード)しよう!」と地域住民が決定したということです。「机基金に賛同し寄付された方々の熱い気持ちが、地域住民の心に届き、そして子どもの笑顔につながる」だなんて、本当に素晴らしいことですね。んー、やっぱり、Ho! ManaBUはやりがいがありますね。



第3回合同執行委員会(JSC) 会合

当初は、3月末に予定されていたJSC(Joint Steering Committee)会合が、選挙のため2度も延期となり、やっと6月19日に開催されました。土曜日の開催、かつ、午後にはW杯の日本-オランダ戦を控えながら(?)も、OEBや県教育局の代表者はもちろん、連邦経済財務省からも出席がありました。

活動報告と、今後の活動予定の後、質疑応答ではいろいろな質問やコメントが県代表から出されました。予算配分要請や、プロジェクトの自立発展性へのコメントに対し、ダレジェOEB局長は開ロ一番、「Ho! ManaBUはみんなものだ」。プロジェクトに期待してばかりいないで、自分たちの活動として捉え、行動しろと、檄を飛ばします。その他の質問にもほぼ回答し、オーナーシップの高さが如実に現れました。



JICA エチオピア事務所の大田所長からは、Ho! ManaBUをエチオピア全土のみならず、アフリカ全土へ広げようという夢が語られ、参加者全員の手拍子を浴びました。JICA 単独では不可能かもしれないこの夢も、プロジェクト主体である皆の努力によるモデル化と、他ドナーとの連携も含めたパートナーシップで実現していこうという呼びかけで、会議は締め括られました。

